

シンガポール日本人学校チャンギ校での教育実践

平成 21 年度派遣
日高市立高萩中学校
教諭 武捨 恵美

1 はじめに

平成 21 年 4 月にシンガポール日本人学校チャンギ校に赴任し、全国から集まった熱意ある教職員、現地スタッフと共に仕事のできたこの 3 年間は、私の教員生活の中で一生忘れることのできない貴重な経験となりました。「全ては子どもたちのために」を合言葉に、児童・保護者・教師が三位一体となって取り組んできた教育活動について紹介します。

2 シンガポール日本人学校チャンギ校の概要

- ・児童数 620名 学級数(1, 2, 3, 4年4クラス 5, 6年3クラス計22)
- ・教職員 38名 (文科省派遣教員、現地採用教員、海外子女教育財団派遣教員)
- ・イマージョン音楽教師 2名
- ・イマージョン水泳教師 2名
- ・英会話教師 14名
- ・事務職員、ガードマン、メンテナー、ガデナー、バスドライバー、バスアテンダント

学校教育目標に「確かな学びと国際感覚豊かな子どもの育成」とし、国際色豊かな教育活動を展開している。チャンギ校の 1 日は、通学バスで登校してくる子どもたちとのハイタッチ挨拶で始まる。教育課程は、新学習指導要領にそって編成し、シンガポールにあった教科指導の充実を図っている。特に英語教育では、イングリッシュスタッフによる習熟度別 13 クラスの英会話指導と日本人教員による習熟度別 6 段階の文法指導などより個に応じた学習を推進し、発音指導(フォニックス)の定着にも力を入れている。また、イマージョン教育の充実にも力を入れイングリッシュスタッフにより音楽と水泳の授業を英語で進めている。

3 英語教育

子どもたち一人ひとりのレベルにあったクラスで学習できるようにクラス編制を行っている。イングリッシュスタッフは、子どもの毎日の英語学習への取り組み・姿勢をみて英語の上達が著しい子どもには、子どもの英会話のレベルに最適なクラスへ推薦する。学期に一度、再編成の機会を設けている。新入生・編入生はレベルチェックを受け、子どもに応じたクラスにて学習を行う。

クラス	子どもの学習到達度
E1	母国語が英語である。日常生活で英語を使用している。
E2~E6	人称、時制による動詞の変化を理解している。読み書きができる。
E7	人称、所有代名詞、基本的な前置詞について理解している。場面に応じて助動詞を使って勧誘、依頼、要求ができる。
E8	質問をすることができる。
E9	質問を理解し、文章で答えられる。
E10,11	尋ねられた質問を理解し、Yes/No で答えられる。
E12	教室英語 41 フレーズを理解している。必修の 75/100 (低学年・高学年) を理解している。
E13	初めて英語を習う。

4 国際理解教育

日チャンギ校では、以下の3つの柱を軸に国際理解教育を推進している。

(1) 交流教育

- ① 現地校との学校交流
- ② ホームステイ・プログラム
- ③ 掲示と放送の充実

毎朝放送で月曜日・マレー語、火曜日・タミル語、水曜日・英語、木曜日・日本語、金曜日・中国語による挨拶を紹介。また、学校交流で現地の子どもたちと一緒に歌うことができるように、マレー語の歌・中国の歌・英語の歌を月の歌として流している。各曜日の挨拶を教室に掲示することにより日常的に5つの挨拶を覚え使うことができた。さらに、現地スタッフの写真を掲示し、顔と名前を覚え、子どもたちが親しみをもてるようにした。

(2) 現地理解教育

① チャンギタイムスの発行

シンガポールの行事や文化・自然を紹介する新聞「チャンギタイムス」を発行し、子どもたちや保護者にシンガポールをより深く理解してもらう手がかりとした。

② ウォークラリーの実施

2006年の冬休みより、長期休みごとにウォークラリーを実施。いくつかのコースを設定し、その中から自分の好きなものを選んで自由に参加する方法をとっている。普段はあまり行かないような場所やしないようなことを選んで紹介するようにし、シンガポールをより深く「体験」してもらうことをねらいとしている。

③ 民族衣装デーの実施

シンガポールの行事を楽しみ、親しみをもってもらうために、チャイニーズニューイヤーを前に実施した。チャイナドレス・マレー服・浴衣など様々な国の衣装で1日を過ごした。また、職員がその民族衣装を着て、エントランスホールで子どもたちを迎え、朝の挨拶運動を実施した。

④ 伝統文化観賞会の実施

多民族・多宗教の人たちが共存しているシンガポールにおいて、文化・芸能鑑賞会を通して、子どもたちがシンガポールの文化への理解や関心を深められることを目的に実施した。

(3) 職員の国際理解

① 現地小学校教員との交流研修会

教師が授業を見せ合ったり、話し合いをしたりする機会をもった。授業時間・施設・教科書の違いなどについて話をした。

② シンガポール人との交流

日本語を学ぶシンガポール人のために、以下の3つの活動に参加した。

- ・シンガポールの学生の日本語スピーチの指導
- ・日本に交流に行く学生のために、日本文化を紹介する出張授業。
- ・「日本語で遊ぼう」という行事に参加し、日本語を使ったゲームを企画し、シンガポール人に楽し

